源概抄

1

L

№ 409
2

源撰抄下

帝國文庫
小汀氏藏書

七月廿日

九郎殿

八月廿日

十郎殿より

廿

為業乃上二逆徒と成とゝ

うらハ家をとゝ成大将乃こゝ

二位殿しきりに宣旨をくだ

くへ乃月ゝ井かさ乃

かくそ乃りしふ乃ゝ

ゆ乃こゝ月とゝ

ゆくさ海く

乃ゝ

ゆくさ乃ゝ

ゆくさ乃ゝ

ゆくさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ぢうの仏のおしへをもつて弟子
[illegible]六道の法をあらはし給へり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

左中将[illegible]大将小野小[illegible]の弁

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いてくひとりわれ中納言しのび給ふ
しるべの人の若んたちに新枕すらし人
なりしかの心のむくつけ切なりしかとも
なりそ持つかハ津守にかたらそさけてなく
中こしこ垂絶ハうりしに法こそあるそけ
人はりハ法しにくるとも見たるもむ月
月日ふ稀こうの三ハ海へ行て海うの物をあり
ちなかくこそ今あれとはらひしてしかふ
なくこ見れなりかとなく中ね

法こそハなりあ海へ入てあ見
なりのうに名こ人こ法ふ
中戸稀こと日ふ
海岸しのふ見れとこそなるもかとう
と法らひして世界人ハ月ごろ
こうかなりなくなく新先いて時こそも
こう天稀七月ちふ法あり記とかりあひふ
人の年こうとうこ三法ふりかりかいて
中見れこうの世とこうのなりうみく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
御子孫の流れを源氏の法流の文元服[illegible]
共部卿は宮と申されけるを法名[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとこ山ぶきをこひけ
竹川こうまれ竹かハとふをき
ふけるのはるの一枝を
ふれるはるの花はなるとも
せいをうしなひ山ぶきの大将といふなる
そ関白さらはそれ若二三の病ハ
ヨ西とはりかこうひくうけうをかりうり
ちのうをこれ位の位にて世房ゆくをハせず

竹川こうの山ぶき若とんをけくをはりをは
ぶりて色ゆ花ハたくこ迄ハ位にそれ
ものしとあそ色くく竹川のさいうのひて
又なるしはゆこうのおくれ侍人ハ侍とりと
山若とんけくあるゆ言ハ山若らふハのはう
とけはそこと迄ハ竹とくいせうん成はく
ゆ竹川ハ春ゆ山ぶきハ
ゆ山ぶきこのうの花ハけ
ゆうれしは山ぶきの忘もいうこうくく妹若姿

泉涌寺のうしろ谷に、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をそむきて侍りける八条の宮の法
皇の御ものいとあはれなる御ものを
聞きて侍りける
こゝろふかきなりけるものを
やうくたちのぼりて空にうかぶ
雲のなごりをかなしみ
たくさんなりけるものを
人のおこのせるものは
なにやらくれなるなるらんと
まゐりて物なとをもとめけるなりけ
ひとりたに物をもとめて
をもうかりける山の光
りてはなれ
ひとりとせるものは
おこのせるものは
色のうへにはなのあるものとしるべき
きくおもひのこしたる事なりけ
宰相の中将のくれなるの山ぶきをこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山おろしのまつかぜの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二

三井のうちとこれまたいとうるはしくてとりあつめたるに
きらうしひけとあるうち三井のうち
しあり　さこそふるもの世々ものれ
しるべくもあらぬ山ぢくもたつ人ぞとく
きりてうりうらへゆきてあるものなれば
なりたちもきくまいりぬ　ものはいとおもしろ
ぬいんとうもやむりあらもものなれとうもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三ぢのうちかあまとりの歌のまりとあそこうり
ばかりは四長

三

あまをとこのまれなるをとこのやうなる女の
かたちなれど

あまをとこのかたちうつくしとしたる
ものにて清らにあんえん
なるをとこ少きさうこそなやの一つうりの
ねうちもあるとも
おつれちきりとうくしとそん
ここうたはあふかくてせうはいとそ
君をこそこうさしての給ひもあれとくん
きくけすすあるこれをもをもいくれ
ふかりしうはなくとかくてはうかふ
去と一ニちふわ給ひ可ふ地と此の方の三ぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやしきおもひをたねとして
をんなとんよみけてれいをつくし
ことのくさとりはやしまふかの石ゆり秋
のゆふへおもひあくすらんとなりてきのひそまし
まれなるあふりのをとこ
めしてみしかの人をもの故に
まことにまれなりてみしかの
きまりなりをつくしをもひ
をんなとくまひせるをとこをもひ

年をへぬるをとこ有迎とゝ女房にて嘉
おりしらとゝ云てしりこをもれおいをの人をもあこ
海をおくしをもの
ちくりとゝこまをもりあるを
をもひきとゝおりつま
をもひかをもれをこ
をもひて男をもをそれ皆ハこて海りまをそれおり
をもうこんをもりてあるまをの
きをあをふのけをまをとをもをおりをの
まををとをまをくをうこんを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆくすえのはてをもとくかまくらとのこころ
ありけるうこころをもとくみうらとたをもとけれのの
おもひをもとくすけをもとけれくこころをもとけ世
をもとくあれをもとくあれをもとくあれをもとけ
五よのあひだをもとけのこころをもとけ
らをもとけてをもとけるの方をもとけ

らけをもとけをもとけをもとけをもとけ世をもと
あをもとけをもとけをもとけをもとけ
世をもとけをもとけをもとけをもとけ

をもとけをもとけ二百三十くらのあをもとけ
三ようをもとけこころをもとけをもとけ
て三十年をもとけをもとけをもとけこころ
をもとけをもとけ方をもとけをもとけ
ゆくすえのはてをもとけをもとけ方をもとけ
こころをもとけをもとけをもとけてをもとけ
をもとけをもとけ方をもとけをもとけ
をもとけをもとけをもとけをもとけ
をもとけをもとけをもとけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八

[illegible]

なくらせくらるらとうなり

ありとみくてふふこうまとうとて

ゆくえもしらぬ山ぢかな

せきもえぬ山ぢかなりけるふ

のこすゆのとんつるもりしかけのなきに

をけるへ人のあるあるそのあること

うけるとあるくらうへのを

うゆくえもしりとおもてけりけるとあるは

けるこそなりとうとをはをはく

ゆくえもしらぬ山ぢかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のうきことをしたのうらもせん
おくこころひ池まる三位入道
あれまものんらしてあれる曉（あかつき）はきこ流く
秋くてこそ世乃中をうらもと
ものいはこそんに月をあはこか
ふたれてこそやのれにおけとれなあ海
うらもとをれなそこと三ことあれも
まかりもまをんいとしひしのもの
さくて秋やのけうちきこをいのをも
しかるに秋んをもひとのとふと花ちり忘
をもひ海おあうしはれのこそうあと
をまをうあ海
神をまて人をなれ花乃ちを
をれとあるをもの
をもちをはの
をもちをりふこをををを月秋
ををとをふをのをををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありとみてをるひのまへの心のうちはしれかり
きちはたらくとゆふてもやあさまつりやうこと
とかきてあり

なるらんの踊といふ地と人はたらてをれ
あるさいをんとてはたらとうたれは六十ぢ
乃踊り重ふ市重ふ八ぢとうす